

令和6年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第7号

令和6年7月22日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- 飽水管理の実施により、玄米品質の低下を防ぎましょう。
- 斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう。

1 気象の概況

平均気温は平年を上回り、日照時間も7月第2半旬を除き平年を上回っています。

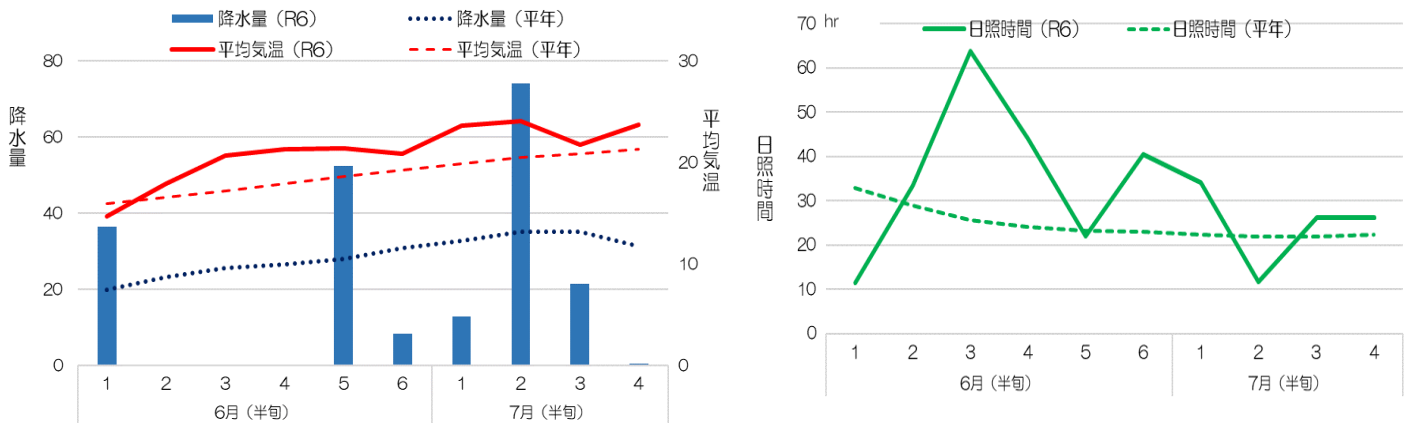


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：6月1日～7月20日）

2 水稻生育調査ほの生育概況

- ひとめぼれの草丈は 68.8 cmと、生育量の目安の範囲内です。茎数は 545.0本/m²と、目安をやや上回っています。葉色は 30.3 で、目安を下回っており、淡くなっています（7月10日に追肥を実施しています）。
- 幼穂長は 38.4 mmで、減数分裂期に入りました。出穂期は 8月5日頃と予想されます。

表2 水稻生育調査結果（7月19日現在）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM 値)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R6	5/20	68.8	545.0	30.3	38.4
【参考】 ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R5	5/14	-	-	27.5	120.6



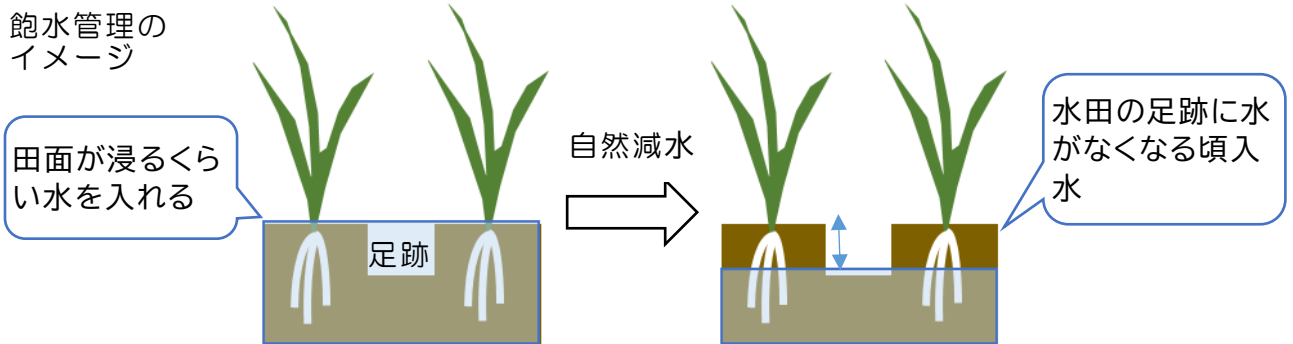
生育の状況

※生育調査ほの見直しにより、今年度から管内の調査ほは 1 か所となり、また、ほ場（担当農家）を変更しています。このため、前年比・差及び平年比・差はありません。

3 今後の栽培管理

(1) 水管理

- 出穂前から出穂後 30 日頃までは、稲が最も水を必要とする時期です。飽水管理を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。
- 今年も高温が予想されています。飽水管理は、根の活力維持や胴割米の発生を抑制し、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。



(2) 追肥

- 登熟期の光合成能力向上、白未熟粒の発生の軽減、玄米品質・食味の向上のため、追肥を実施しましょう。
- 葉色が低下しているほ場が見られます。生育ステージを確認し、必要に応じて追肥を行いましょう。（表2及び表3参照）

表2 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	出穂前日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期	25日	1~2	-
減数分裂期	始期	15日	30~40
	盛期	12日	80~100
			±0

表3 各品種における追肥の時期と量の目安

品 種	窒素施用量 (成分量kg/10a)	
	幼穂形成始期 (出穂25日~20日前)	減数分裂期 (出穂15~10日前)
ひとめぼれ	1	1
まなむすめ	2	
ササニシキ	-	1.0~1.5
だて正夢	-	2
	1 (茎数が少ない場合)	1 (幼穂形成始期に1kgを追肥した場合)
みやこがねもち		1

(3) 病虫害防除

【いもち病】

- 上位葉の葉いもち病は、穂いもちの発生源になります。ほ場を見回り、病斑を確認した場合は直ちに防除を実施しましょう。
- 穂いもち病は、出穂直後が最も感染しやすくなります。穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、生育ステージを確認し、出穂 20~10 日前に実施しましょう。
- BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、右の QR コードを参照してください。



宮城県病虫害
防除所
BLASTAM

【紋枯病】

- 出穂期前からの発病は被害が大きくなります。また、前年に発生が多かったほ場では、多発の恐れがあります。
- 茎葉散布剤による散布適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で 18%となっていますので、要防除水準に達した場合は防除しましょう。
- 株元に薬剤がよく付着するように十分な薬量で散布してください。

【稲こうじ病】

- 前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、出穂 20~10 日前に防除を実施しましょう。

【斑点米カメムシ類】

- ・7月19日に県病害虫防除所から斑点米カメムシ類に関する注意報が発表され、予想発生量は「多い」、発生時期は「早い（第2世代成虫発生盛期：8月第2半旬）」となっています。
- ・今年は、水稻の出穂とアカスジカスミカメ第2世代成虫の発生が重なる可能性があります。水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回を確実に実施しましょう。

4 金のいぶき

(1) 調査ほでの生育状況

茎数は、生育量の目安（570～620本/㎡）を上回っています。葉色は34.5で、前回調査（38.8）からやや低下しましたが、目安の葉色（33～35）を維持しています。幼穂長は0.8mmで、間もなく幼穂形成期を迎えます。

表4 金のいぶき普及展示ほの生育調査結果（7月19日現在）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)
金のいぶき 気仙沼市本吉町	R6	6/1	71.8	578.7	34.5	0.8
	前年比・差	+12	—	—	+5.0	-8.4
	平年比・差	+8	—	—	+4.9	-38.6

注) 平年値は令和3年から令和5年までの3か年の平均値

(2) 今後の栽培管理

- ・減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持するため、幼穂形成期（幼穂長1～2mm）に窒素成分で1kg/10a、減数分裂期（幼穂長30mm～120mm）に窒素成分で1kg/10a程度追肥しましょう。
- ・いもち病に弱いので、予防防除に努めるとともに、発生を確認したらすぐに茎葉処理剤で防除しましょう。

5 乾田直播栽培

(1) 調査ほでの生育状況

草丈及び茎数は、前年を上回っています。幼穂長は9.2mmで、幼穂形成期に入っています。

表5 水稻生育調査結果（7月19日現在）

品 種 地区名	年	播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R6	3月25日	57.2	63.8	342.7	34.2	9.2
	前年比・差	+10	+20.8	105%	129%	-1.8	+2.6

(2) 今後の栽培管理

前述の「3 今後の栽培管理」を参照。

6 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台7月18日発表）

○予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・期間の前半は前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は東北日本海側で平年並か少ないでしょう。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防しましょう!!